

修了生からのメッセージ

博士前期課程

Master's Program



金鳴

JIN Ming
政治学専攻
博士前期課程
2022年3月修了

充実した大学院生活

私は、学部の高齢者に関わるボランティア活動をきっかけにして高齢者社会学を研究したいと考え、大学院に進学しました。大学院一年の時、新型コロナウイルスに見舞われました。当時武漢にいた私は日本に戻れず、学生生活がうまくやっていたかどうか分からなく、不安を抱きました。しかし、研究室の先生も事務室の方々も私のことを気遣ってくださり、中国でリモートの形で一年目の学業を終えました。二年目の時、ようやく日本に戻り、改めて通学したり大学院の色々施設を利用したりすることができるようになりました。また、二年生の時、TAの業務に挑戦しました。私が担当する先生は目の不自由な方で、通常の仕事以外、先生を教室にお連れすることや授業後に駅まで先生をお送りすることも私の役目になりました。毎週帰りで先生

と話すことで、私も色々勉強になり、心からすごい方だと思って、いい思い出になったと感じました。

ぜひ皆さんも、一緒に明治大学大学院で充実な学生生活を過ごしませんか。

Q 師事していた教員は？

A 石川 雅信 教授

石川研究室は社会学の様々な分野の課題を研究することができます。特に家族社会学や、高齢者について研究したい方にお勧めします。先生はとても優しく話しやすい方と思い、普段学業だけでなく、生活上で悩んだり困ったりすることがあればいつも熱心に聞いてくれます。気楽な雰囲気のある研究室です。

教員情報 P.046

博士後期課程

Doctoral Program



中川 翔太

NAKAGAWA Shota
経済学専攻
博士後期課程
2022年3月修了

政治学・経済学研究を通じて、「前へ」

政治経済学研究科では自身の専攻や専門に関連した授業はもちろんのこと、並行して実施されている他の専攻、専門の授業を希望すれば履修することができます。また、研究科の枠を超えた各種行事も実施されており、交流により、新たな知を得ることができます。私の場合、経済学だけではなく、政治学、経営学とのかかわりもあったため、研究のヒントとなるような研究者間交流を続けることができました。

在学中にはTA・RA・助手といった職種で学内業務に携わるなど、収入を得ながら、研究に集中できる体制が整備されています。私はこれらの業務経験から、修了後の大学教員としての業務においても、為になる経験を積むことができた実感しております。研究についても充実した図書館はもちろんのこと、研究科内で運営されている学

会（明治大学政経学会）で研究発表の実践ができ、所属する学外の学会での研究発表においても臆することなく発表に臨むことができました。みなさんにもぜひ、政治学・経済学研究を通じて、「前へ」進んでいただきたいです。

Q 師事していた教員は？

A 森下 正 教授

森下先生は、中小企業研究を通じて、各種行政機関・実業界にわたって幅広く活躍されております。博識で教育熱心な先生の指導により、経済学を中心に携え、体系的に学びながら研究を進めることができました。国内各地にて実地調査を実施しており、現場・現物・現実からも学ぶという姿勢も森下研究室の魅力です。

教員情報 P.047

近年の博士学位授与

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(政治学)	国家による核武装の選択と同盟との関連性についての研究 —日本、米国、中国、台湾の戦略論理の相互作用をめぐって—	2020年度
博士(政治学)	島嶼をめぐる法と行政に関する研究 —地方自治法制と離島振興法制からのアプローチ—	2020年度
博士(経済学)	Income Distribution and Economic Dynamics	2020年度
博士(政治学)	ドイツにおける反ファッショ委員会運動：1944～1947年 —ライブツィヒを主要事例として—	2021年度
博士(政治学)	マレーシアとシンガポールにおける政治的腐敗(汚職)と経済発展の相関性について：政治文化という媒介変数を通じて	2021年度
博士(経済学)	中小製造業の持続的発展に関する研究 —組合等連携組織の共同事業を活用した生産性向上の実現—	2021年度
博士(政治学)	全体主義理論の応用 —人間の政治的組織化に関連して—	2022年度
博士(政治学)	文化政策における行政の専門性に関する研究 —「文化専門職」を対象に—	2022年度
博士(政治学)	外交政策における水資源 —国際河川の開発利用を巡る中国と周辺諸国の関係—	2022年度
博士(経済学)	日本女性の未婚化に関する人口学的考察 —女子高等教育と配偶者選択に注目して—	2022年度

論文博士

博士(経済学)	持続可能な経済の探究 —環境経済思想の軌跡—	2021年度
---------	------------------------	--------